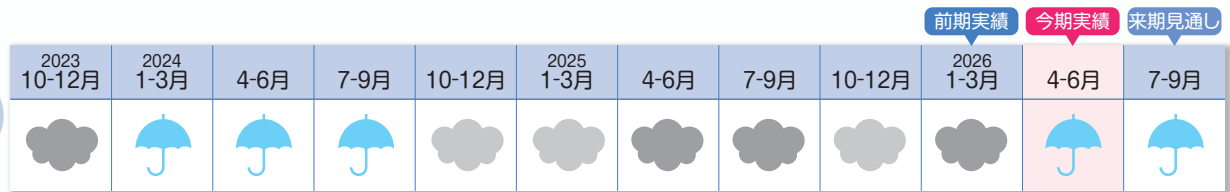




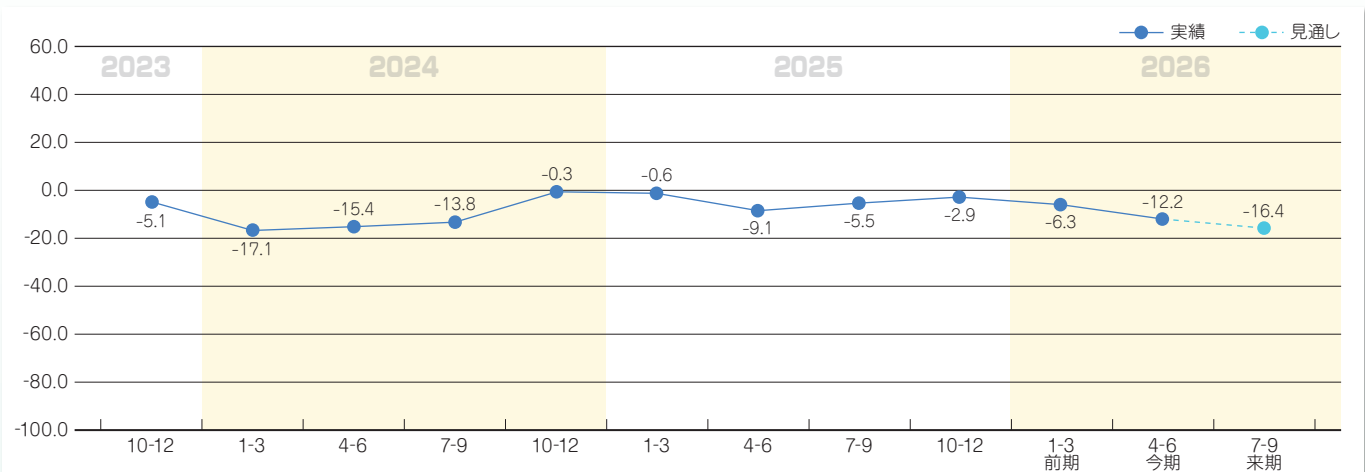
全業種

回答数321社

今期の業況D-Iは、前期比5.9ポイント低下の▲12.2と、2期連続で悪化。小売業はわずかに改善。その他の業種は悪化した。来期の予想業況D-Iは、4.2ポイント低下の▲16.4と悪化の見通し。卸売業は横ばいを見込むが、その他の業種は悪化の見込み。

業況D-I
の推移

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



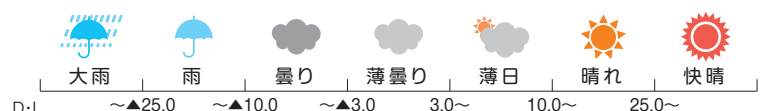
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査
概要

実施時期 2026年6月1日～5日
対象企業 321社
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。



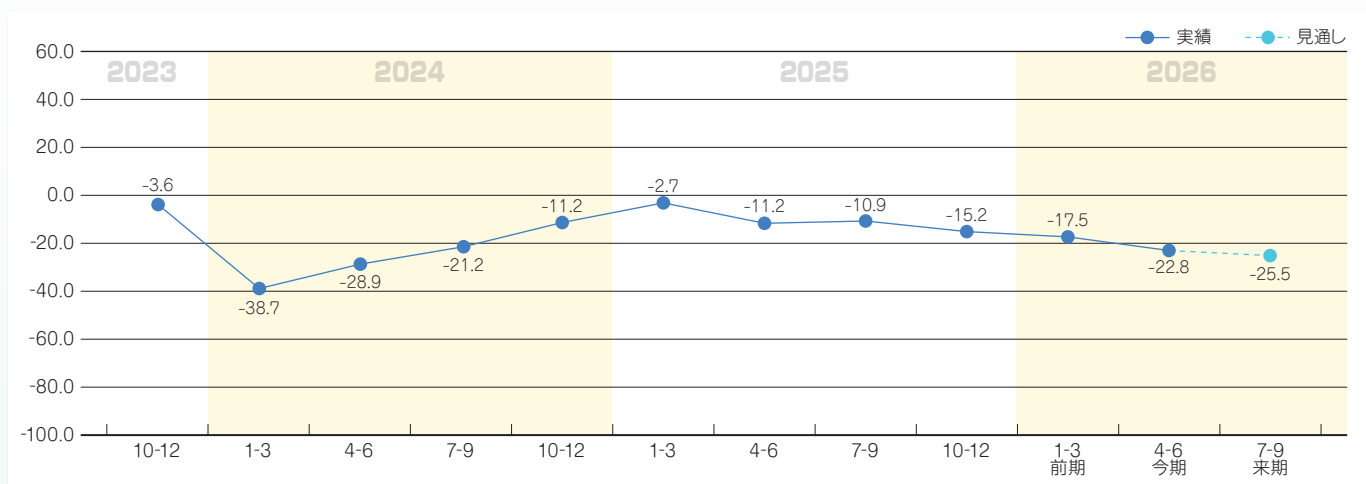
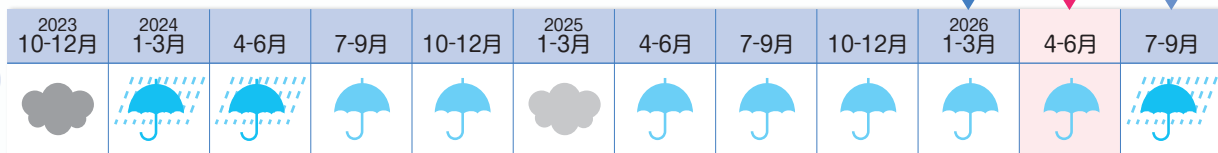
製造業

回答数114社

今期の業況D・Iは、前期比5.3ポイント低下の▲22.8と、3期連続で悪化した。多くの企業が販路拡大、価格転嫁等により売上増加や収益改善に努めているが、中東情勢の影響による原材料価格の上昇等により、収益D・Iは大幅に悪化。来期の予想業況D・Iは、2.7ポイント低下の▲25.5と悪化の見通し。さらなる価格上昇を懸念する声が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

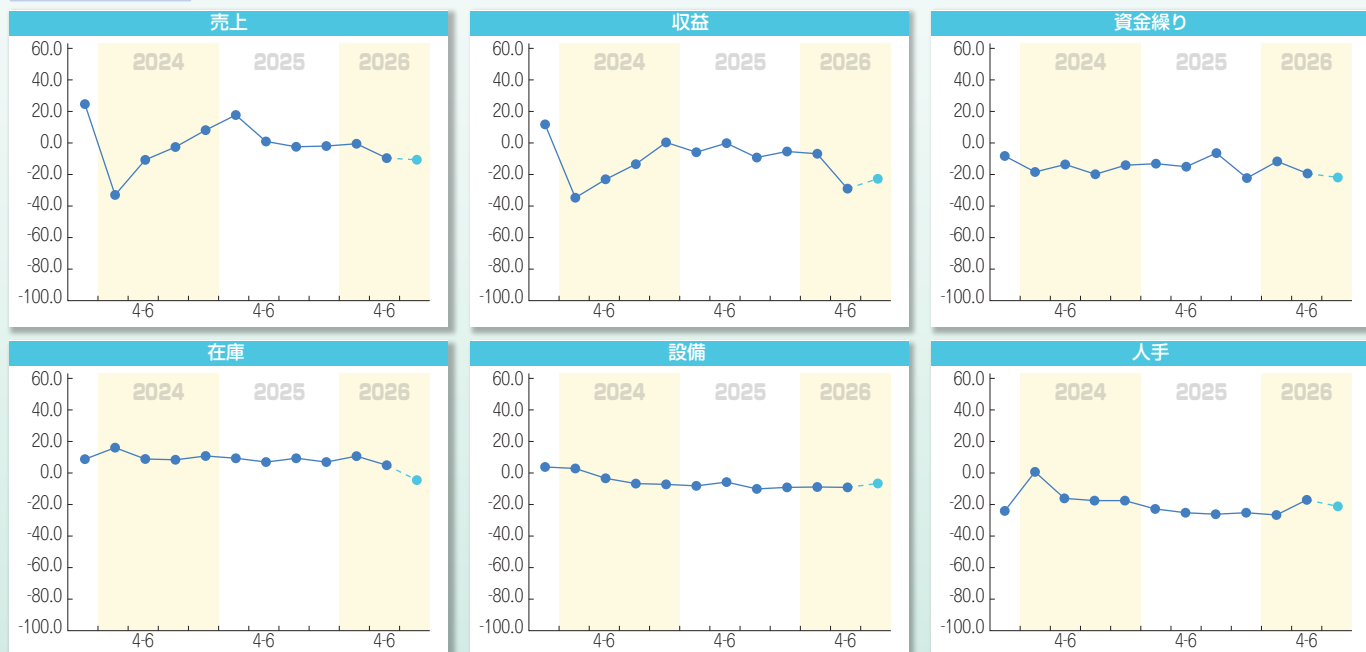
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



- 原材料価格上昇分は価格転嫁ができていないが、人件費増加などの分はできていない。(繊維工業)
- 中東情勢の影響により資材が高騰したり入荷が遅れたりしている。(プラスチック製品製造)
- グループ企業で販売価格を交渉するにも上限があるので、販路拡大を狙っていききたい。(自動車部品製造)



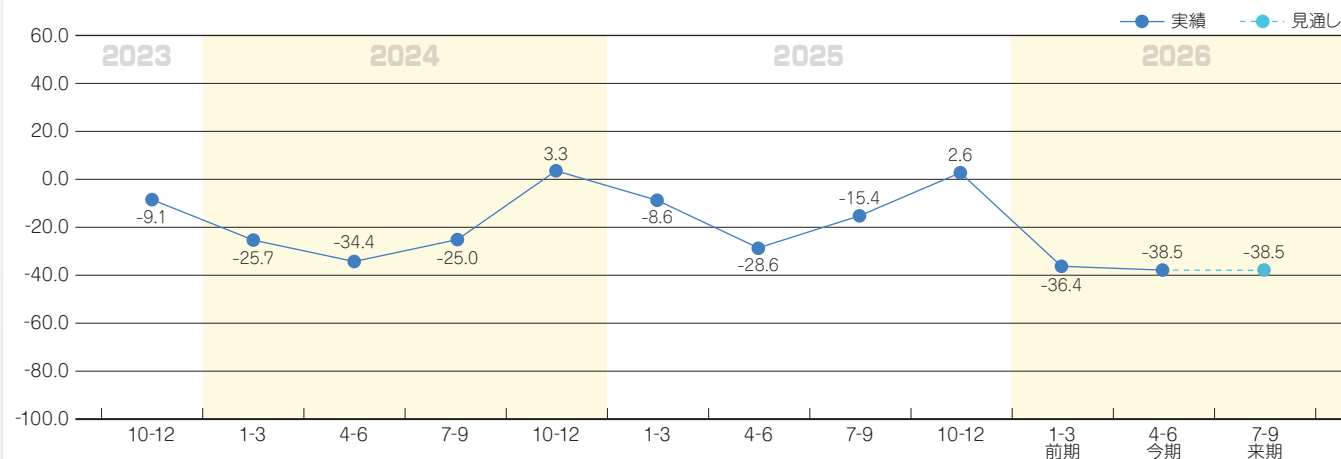
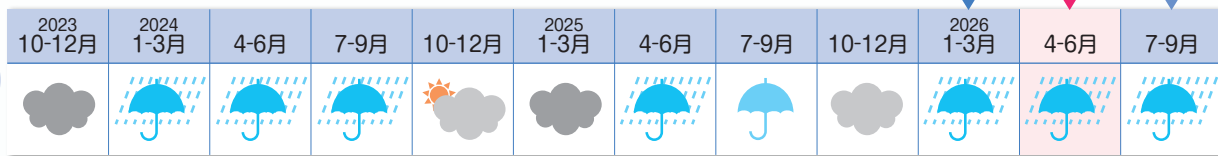
卸売業

回答数39社

今期の業況D・Iは、前期比2.1ポイント低下の▲38.5と、わずかに悪化。仕入価格高騰に対し価格転嫁が追い付かず苦戦しているとの声が多く、収益D・Iは2期連続で大幅に悪化した。来期の予想業況D・Iは▲38.5と、横ばいの見通し。中東情勢の影響を懸念する声もあり、先行き不透明感は強い。

前期実績 今期実績 来期見通し

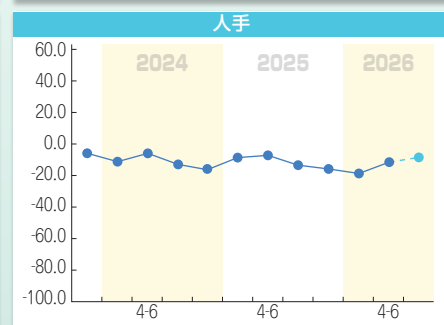
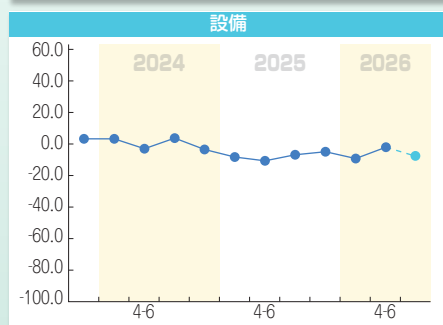
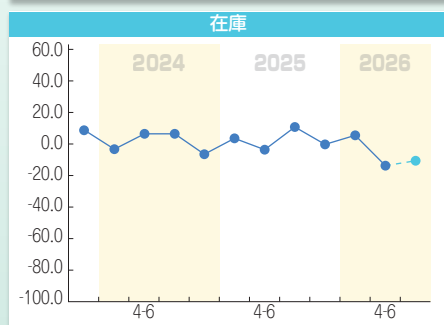
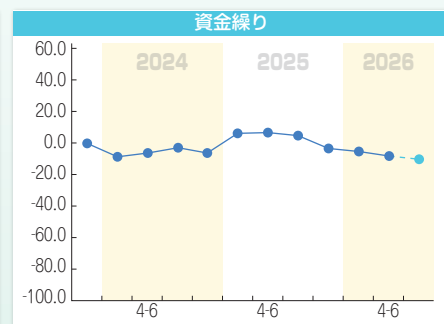
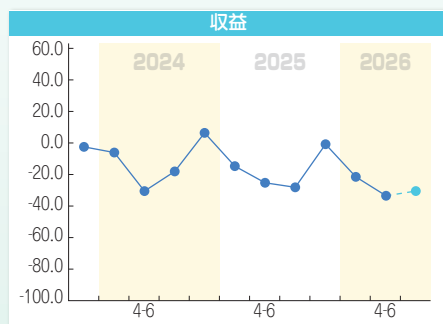
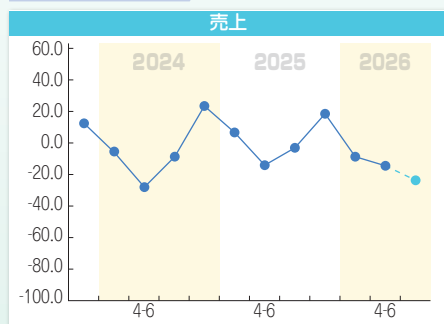
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 物価高の影響で売上、利益が減少している。さらなる価格転嫁などにより、改善を図っていく。(建築資材卸売)
- 業況は安定しているが、仕入価格高騰には少し苦戦している。人材が不足しているため、常に募集等をかけ積極的に採用活動を行っている。(食品卸売)
- 中東問題で企業が発注を減らしていることもあり受注が減少。仕入先の供給が不安定なこともあり、収益は悪化している。取引先の見直しも検討中。(繊維品卸売)

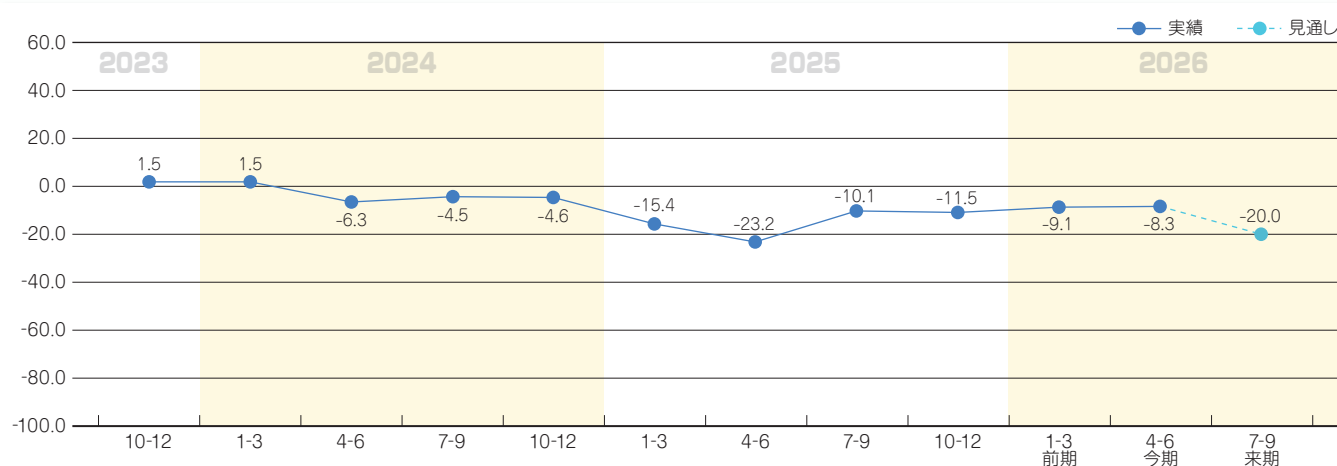
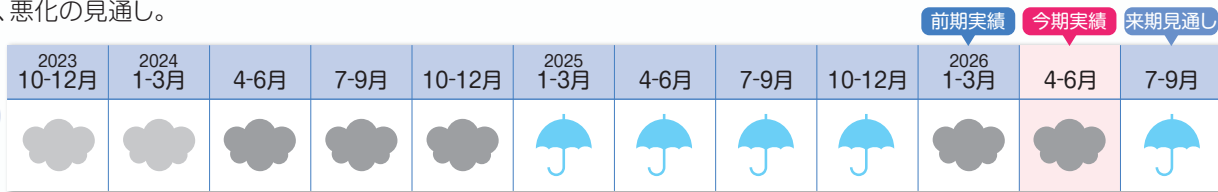


小売業

回答数60社

今期の業況D・Iは、前期比0.8ポイント上昇の▲8.3と、2期連続でわずかに改善。仕入価格上昇や人件費増加等により、収益確保に苦戦する企業が多い。中東情勢の影響で在庫確保が難しいとの声も聞かれた。来期の予想業況D・Iは、11.7ポイント低下の▲20.0と、悪化の見通し。

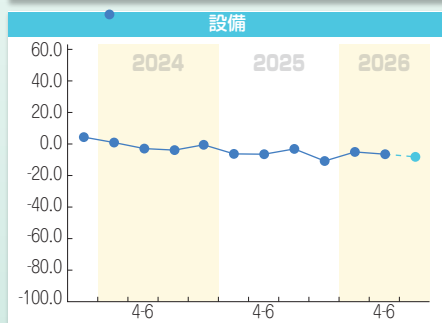
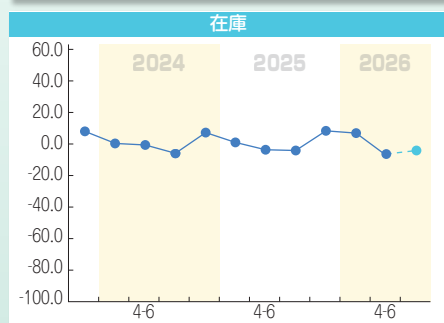
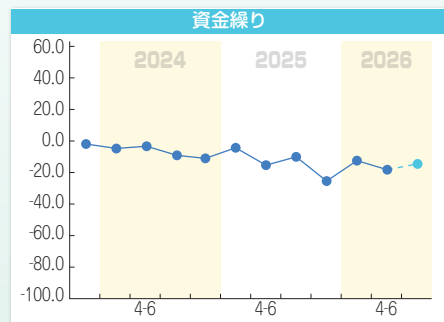
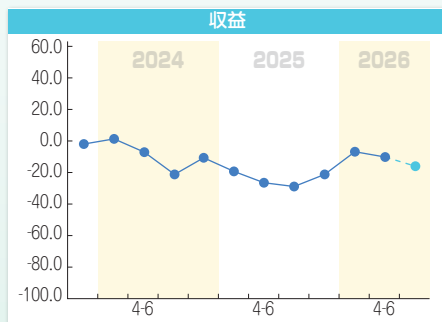
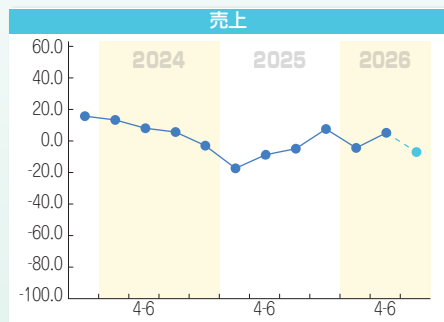
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 仕入価格が継続的に上がっているため、値上げを行う。中東情勢の影響については、商品の製造には問題ないが、包装資材(ビニール袋等)が入りにくく、価格が上昇している。(食品製造・販売)
- 中東情勢の影響により、エンジンオイル価格が高騰し、車両の部品の搬入も遅れている。車両自体の価格に影響はなく、中古車、新車販売ともに好調。(自動車販売)



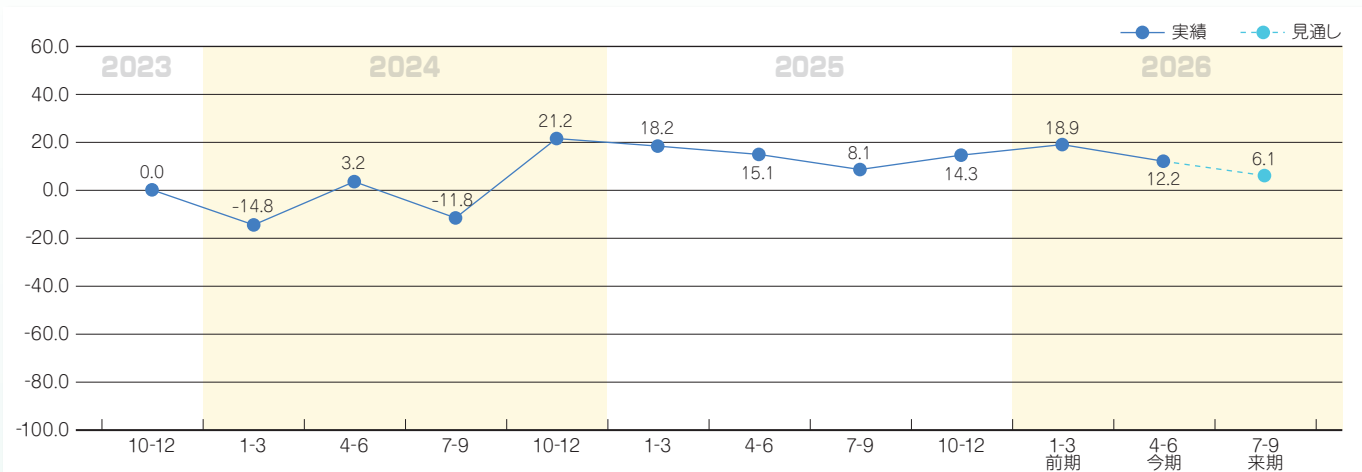
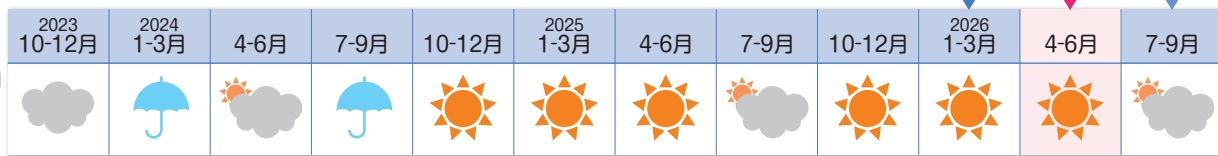
サービス業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比6.7ポイント低下の12.2。3期ぶりに悪化するも、プラス水準を維持。売上D・I、収益D・Iとも安定している。一方で、仕入価格高騰により利益が圧迫されているとの声も聞かれた。引き続き人材確保・育成が課題となっている。来期の予想業況D・Iは6.1ポイント低下の6.1と、悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

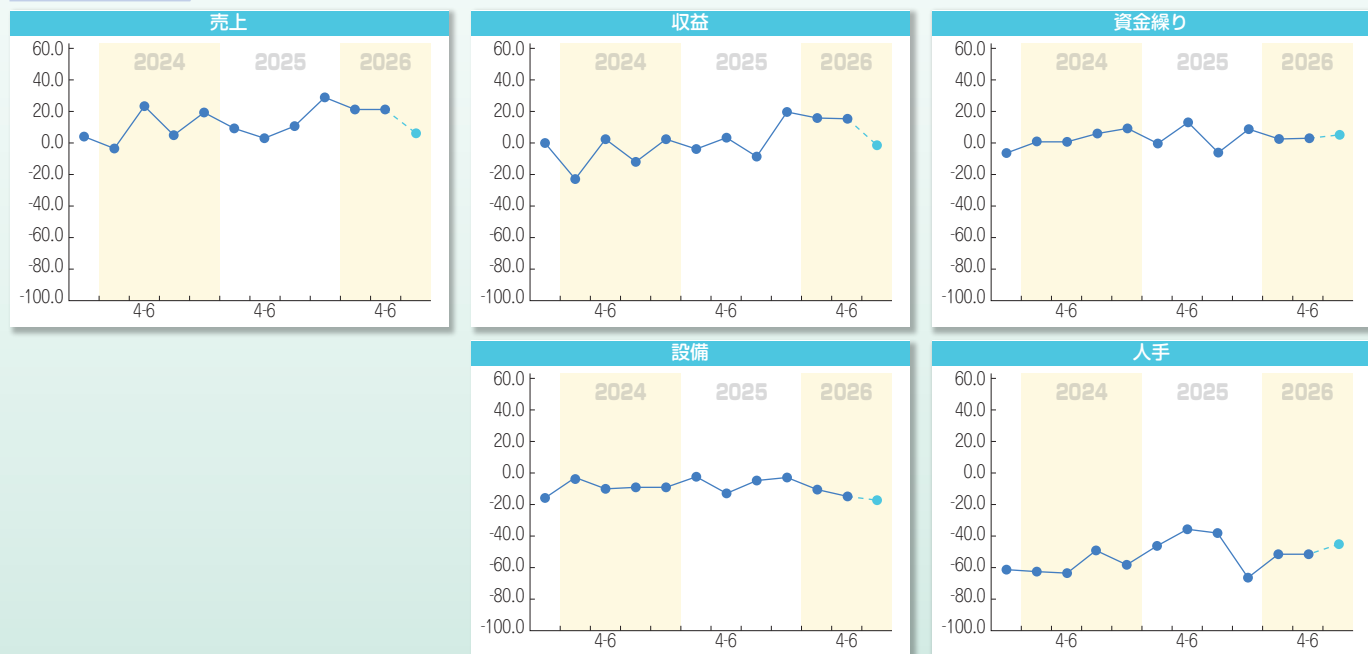
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 新店舗の稼働により、売上の増加を見込んでいる。人材育成に力を入れていく。(クリーニング店)
- 仕入価格は高騰しているが、徐々に価格転嫁が出来ており、業況は安定している。(自動車整備業)
- 若手社員の育成に取り組んでいる。離職率を下げたい。(運輸業)



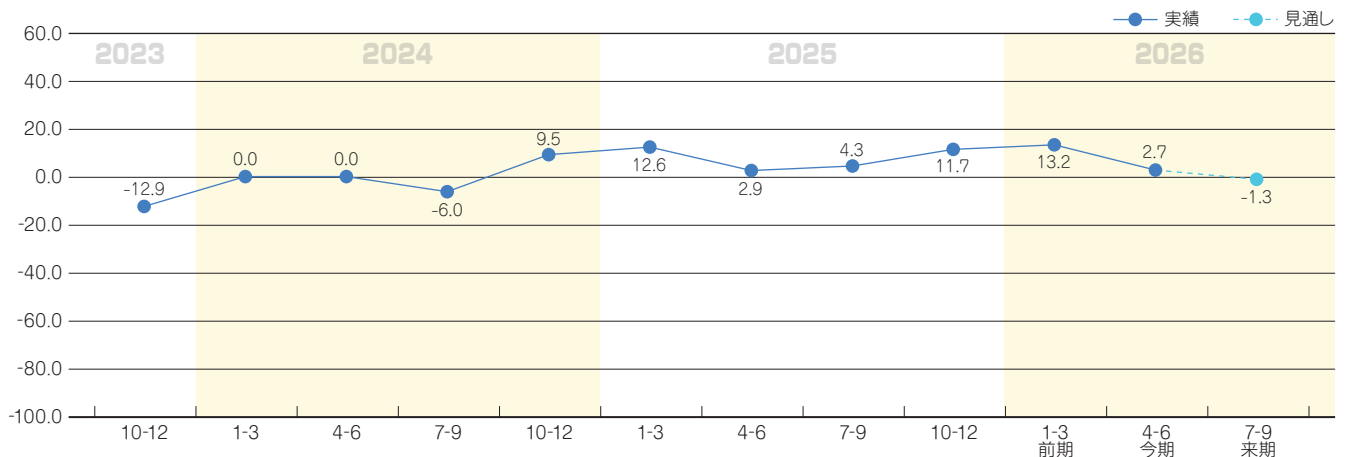
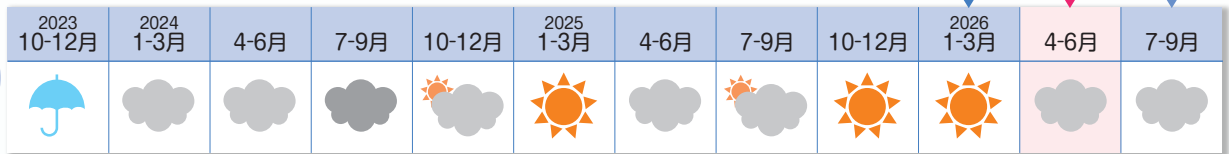
建設・不動産業

回答数73社

今期の業況D・Iは、前期比10.5ポイント低下の2.7と、4期ぶりに悪化した。コスト上昇に対して価格転嫁が十分にできていないとの声が多い。来期の予想業況D・Iは、4.0ポイント低下の▲1.3と悪化の見通し。中東情勢に伴うさらなる仕入価格上昇、材料不足等による業況悪化を懸念する企業が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

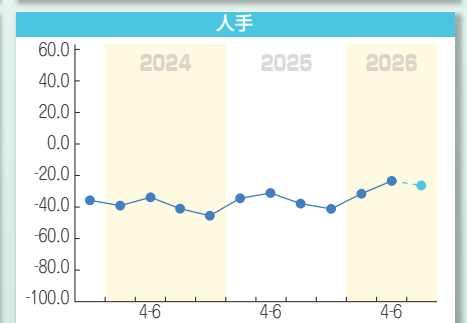
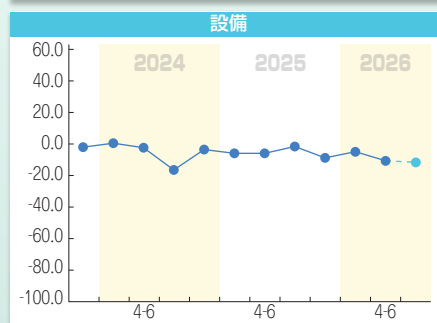
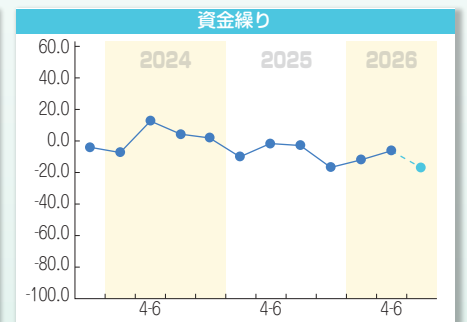
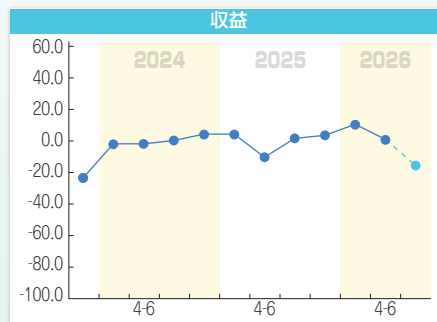
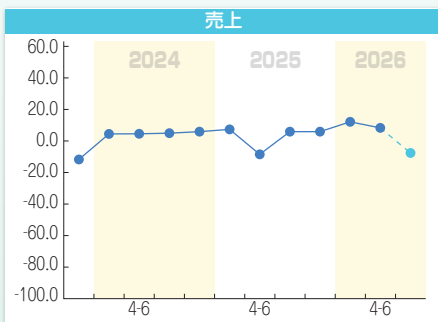
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 受注量の減少、仕入価格高騰による利益の圧迫が続いており、見通しが立ちづらい状況に不安感がある。(土木工事)
- ナフサショックによる完工遅延リスク、コスト上昇リスクなどの問題がある。リフォーム部門や不動産仲介部門など含め全社体制で売上、利益の確保に努めている。(戸建分譲)
- 従業員教育やデジタル広告に注力したことなどで、昨年と比べて売上が大幅に増加。(建売業)